

文部科学省委託事業「キャリア教育・就労支援等の充実事業」

平成28年度

研究紀要

研究主題

キャリア発達支援の視点による
小中高12年間を見通した学習活動の充実改善
(三年次)

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

ごあいさつ

本校では、平成 25 年度からキャリア発達支援の視点を取り入れ研究を進めてまいりました。平成 25 年度は「キャリア教育の視点からの教育課程を小中高 3 学部の学習内容の一貫性、系統性、関連性の側面から再考する」というテーマで、また、平成 26 年度から今年度までの 3 年間は「キャリア発達支援の視点による、小中高 12 年間を見通した学習活動の充実改善」というテーマで、文部科学省のキャリア教育・就労支援等の充実事業の委託を受けて研究を進めてまいりました。

本研究テーマでの一年次は、これまでの研究成果を引き継ぎながら概念を整理し共通理解するとともに、その概念にもとづく授業実践や作業学習モデルプランの開発、進路指導の充実改善に取り組みました。二年次は、一年次の課題をふまえて、各部での授業実践と並行して、小中高 12 年間を見通して学習活動を充実改善させるための観点や学習内容の系統性・独自性についても検討しました。また、「活動中に観られた児童生徒の『行動や言動を含むあらわれ』をどのような方法で見取るのか」について、つまりキャリア発達支援における評価のあり方についても検討しました。三年次である今年度は最終年度であるため、児童生徒が学習活動や体験を確かな「経験」につなげていけるよう、キャリア発達の視点をもって、授業作りのプロセス及び児童生徒の行動や内面の変容のプロセスを捉え直しながら実践研究を行ってきました。

本校のキャリア教育の特徴は、「小中高の見通し」や「児童生徒の内面への着目」を重視している点にあると思っております。そのために、児童生徒の学びや育ちのプロセスを丁寧に見取することに努めました。授業後には授業撮影ビデオや評価シート等による記録をもとに、内面の見取りと適切な支援・問いかけ・環境整備等について議論と共有を重ねてきました。教師にとっても授業作りや振り返りのプロセスを重視してきたといえます。その試行錯誤や検討過程の一端を本紀要によりご理解いただけるのではないかと思います。

本テーマでの研究は今年度で終了し 1 つの区切りとなります。4 年間の研究により、「キャリア教育」「キャリア発達」という冠が研究テーマから外れても引き継ぐべき教育の本質を学ぶことができたのではないかと思っております。次年度からはこれまでの成果と課題をいかしさらに発展させながら、児童生徒のキャリア発達を支援する教育を追究してまいります。教育研究会にご参加の皆様ならびに本研究紀要をご高覧の皆様には、忌憚のないご意見やご教示をいただけましたら幸いに存じます。

最後になりましたが、本校の研究にご指導・ご助言をいただきました多くの皆様には、心よりお礼申し上げます。

校長 綿引 伴子